

HP公開版

NAFSA2022 デンバー大会

出展団体様アンケート集計結果

※回答:出展29団体中 29団体(回答率:100%)

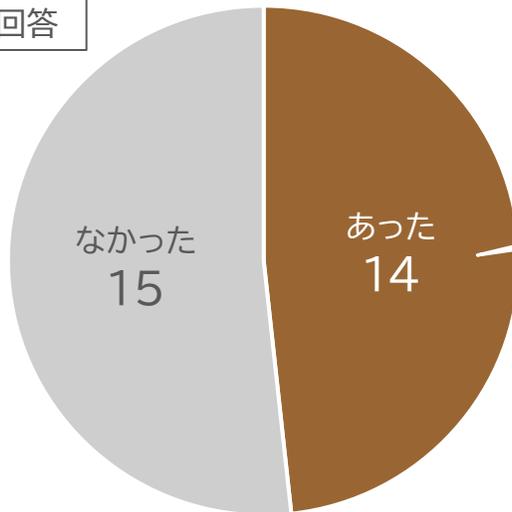
◎大会終了後(2022年7月)にWEBアンケートを実施。

◎実際に参加された職員の方に回答を依頼。

1. 「コロナ禍」の影響

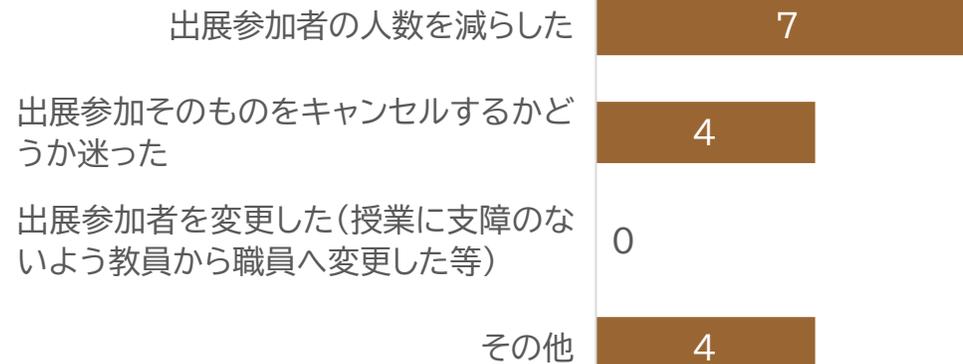
今回のNAFSA2022の出展参加について、「コロナ禍」の影響がありましたか？

単一回答



どのような影響がありましたか？

複数回答可



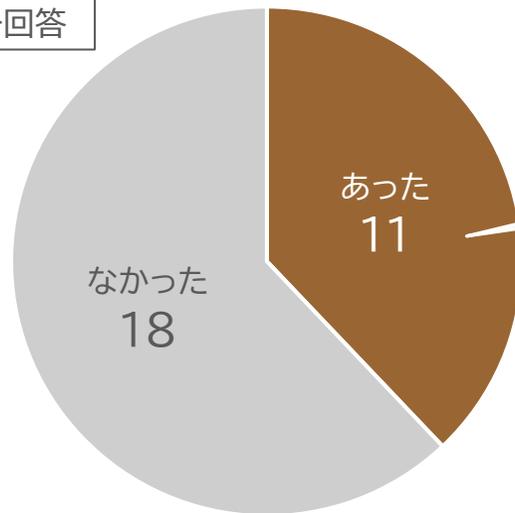
「その他」回答(抜粋)

- 入国・帰国時の各種制限に対応する手続きが煩雑だった。
- 大会がオンライン開催もしくは対面開催となるのか不明な時期があった為、常時に比べ参加者の決定に時間を要した。

2. 「円安」の影響

今回のNAFSA2022の出展参加について、「円安」の影響がありましたか？

単一回答



どのような影響がありましたか？

複数回答可

ホテルやフライトを費用が安いものへ変更した

5

出展参加者の人数を減らした

4

出張予定を短縮した

0

その他

4

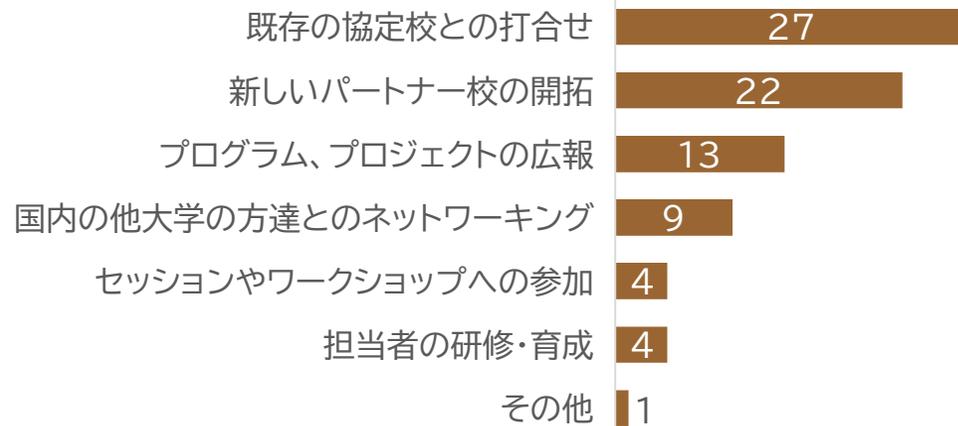
「その他」回答(抜粋)

- 旅費等の予算額を増加せざるを得なかった。

3. NAFSA2022の「参加目的」

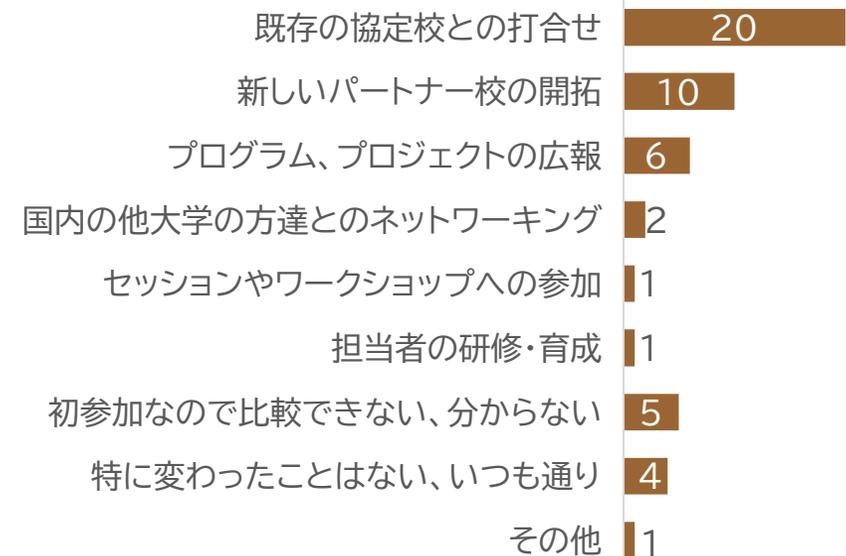
NAFSA2022の「参加目的」を教えてください。

複数回答可



参加目的のうち、「コロナ禍で久しぶりの対面の会であるため、(コロナ前と比べて)特に意識した、力を入れた」ものがあれば教えてください。

複数回答可



3. NAFSA2022の「参加目的」

前頁の「コロナ禍で久しぶりの対面の会であるため、(コロナ前と比べて)特に意識した、力を入れた」項目について、なぜそれについて注力したか、理由を教えてください。(抜粋)

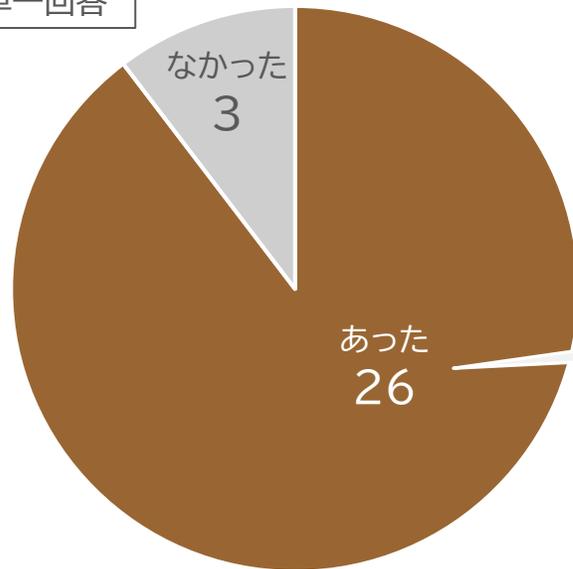
自由記述回答

- 過去2年間、対面での打ち合わせができない状況が続いていたため、パートナー校の閉校、担当者のレイオフ等、協定大学側の体制や環境にも変更が生じており、最新情報収集のため。
- 協定校とはメールで上手く伝わらないような点(日本の水際対策に関して丁寧に説明する内容等)でも対面で話すことによって解消することが必要だと思っていたため。
- 日常業務に追われる中で、既存協定校と話す時間や新規校をリサーチする時間を確保することは難しい。そのため、NAFSAのような機会に、参加者全員が同じ目的で集中して関係機関との打ち合わせや会食、情報収集をすることは、既存プログラムの改善や新規企画の際に有益であるため。
- 新規協定校の開拓の機会が数年間閉ざされていたため。
- 新規協定校開拓はオンラインだと事前のアポを取らなければいけないが、対面だとブースの資料を見てドロップインで話ができるため。
- 本学の日本語教育についての詳細を協定校に説明したかったため。
- 昨年度から新たに始めた短期受入プログラムを各校へ広報するため。
- コロナ禍中に受入プログラムの再編・新展開があった為、NAFSAでの協議を通して、再編後のプログラムの周知を行うため。
- 担当者の研修・育成については、通常は国際担当以外のスタッフ研修で行っているが、今回は国際担当に異動や新規採用で入ったスタッフがおり、それらスタッフの研修・育成が必要だったため。

4. 「飛び入りの打合せ」の状況

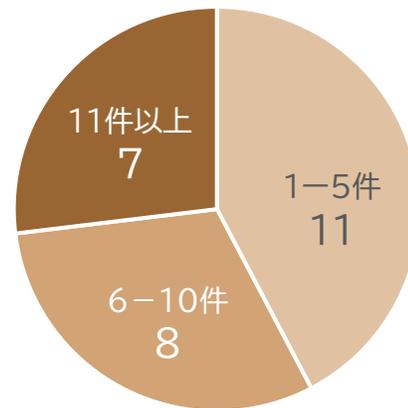
貴学ブースでは「飛び入りの打合せ」がありましたか？

単一回答



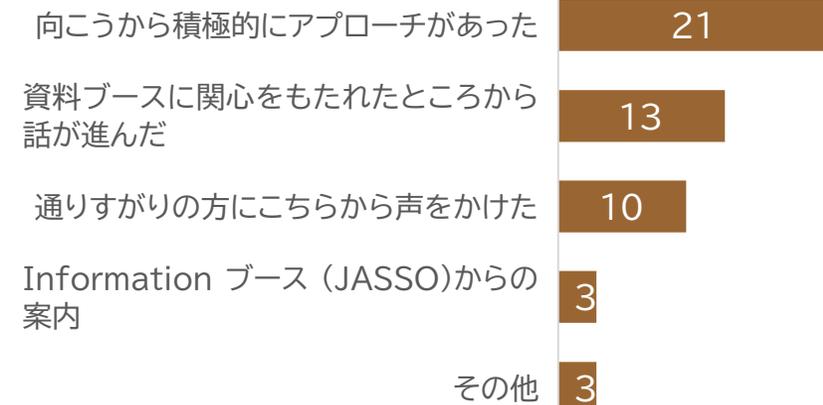
件数

単一回答



きっかけ

複数回答可



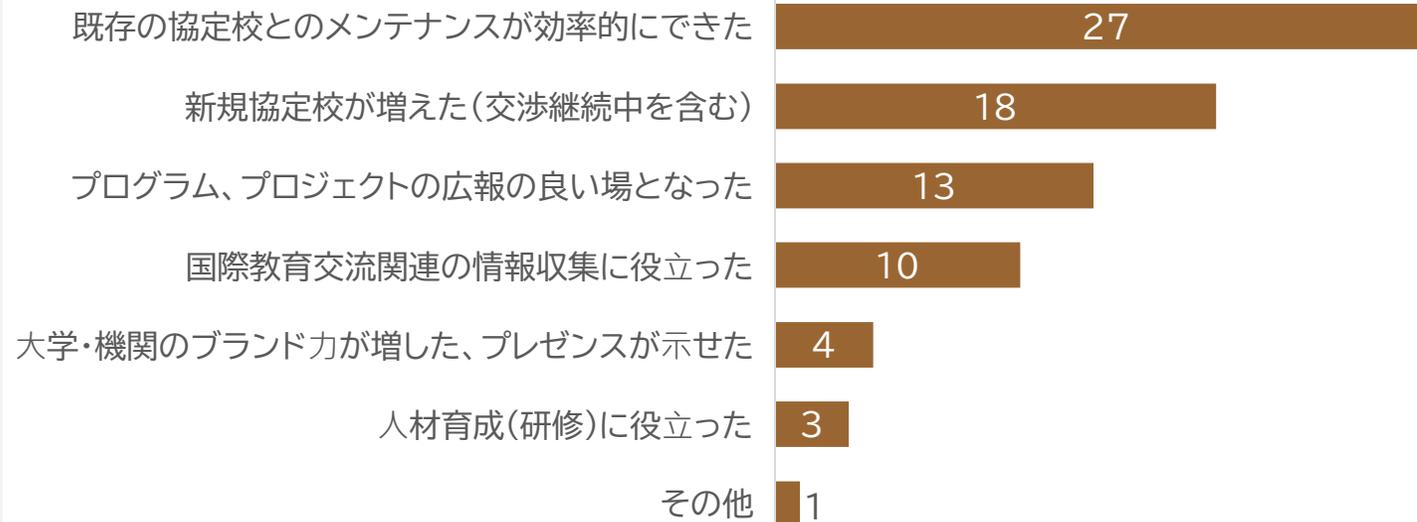
「その他」回答(抜粋)

- 既存パートナーからの紹介・ミーティングをした大学からの紹介。
- 既存協定校で事前にアポイントが無かった大学からのアプローチ。

5. 出展の成果

出展成果はどの点に現われていますか。

複数回答可



「その他」回答

- 既存の協定校と新しい交流の可能性について相談ができた

5. 出展の成果

前頁の出展成果について、具体的に教えていただけますか。(抜粋)

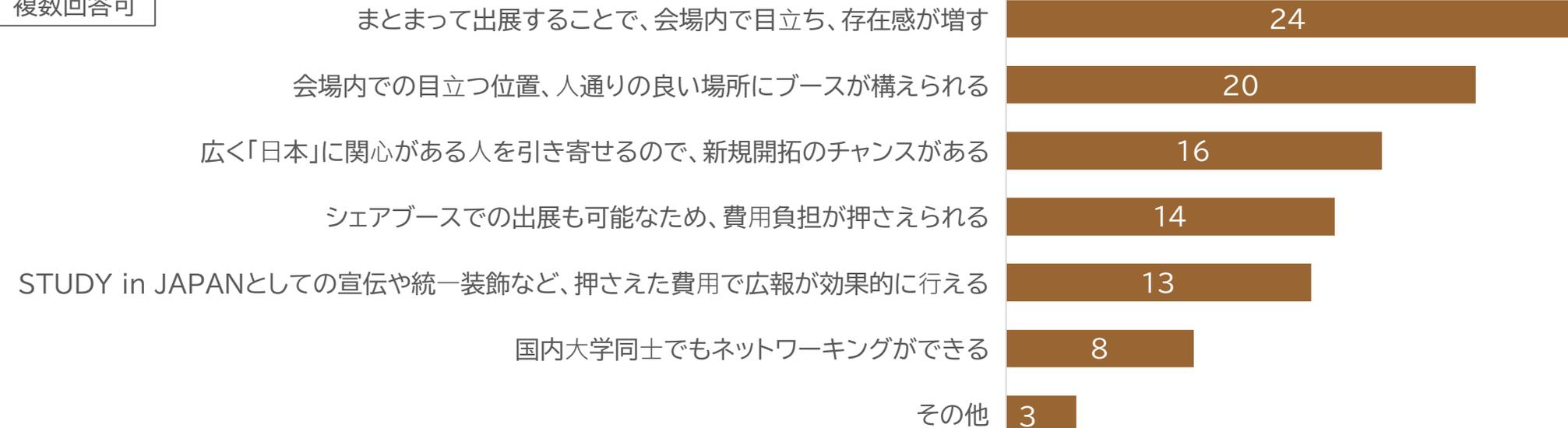
自由記述回答

- 「協定締結協議中の大学が10大学以上」「約8校と新規協定締結に向け協議中」「新規で5大学と交渉開始予定」「2022年3月に行われたAPAIEでオンライン審議をしていたところとの話も数校進んだ。」「コロナで滞っていた大学との交渉再開。」等、協議報告多数。
- 「協定校が10数校増える見込み。」「新規協定候補校を8校確保」「協定校が2校増える予定」「協定校は3大学増える予定」等、具体的締結報告多数。
- 新規エリアへの協定校拡大の可能性が高まった。
- 欧米における新たな奨学金制度・各校の短期プログラムなどの具体的な情報収集。
- 語学セミナー再開に向けた話し合い。
- 新規の短期受入プログラムについて多くの大学へ広報できたことに加え、今後のプログラム展開についても新たな知見が得られた。
- 日本語教育について対面で説明ができ、協定校の日本語教員のデータベース作りが開始できる予定。
- 既存協定校に対して本学の新たな英語コースや日本語プログラムの説明ができ、関心を示してもらえた。
- アポイントのあった30大学のみならず、ブースに立ち寄っていただいた20以上の大学へ受入プログラムの広報ができた。
- これまで交換留学を前提とした交流先の開拓に力を入れてきたが、協議内容をもとに、認定留学先の拡大を検討するようになった。
- 新しいスタッフが協定校の担当者と顔見知りになることができ、今後の業務遂行がスムーズになることが期待できる。

6. 「日本合同ブース」で出展するメリット

単独ブース(1大学のみで出展)でなく、「日本合同ブース」で出展するメリットをどこに強く感じますか。

複数回答可

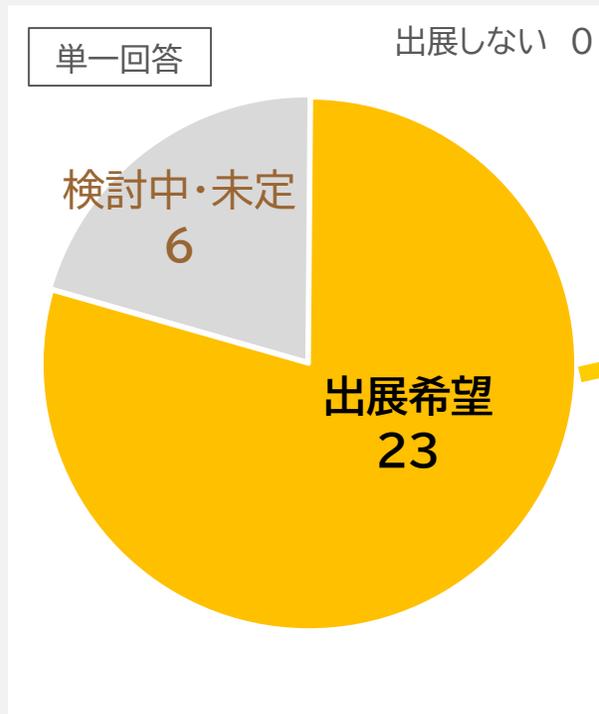


「その他」回答(抜粋)

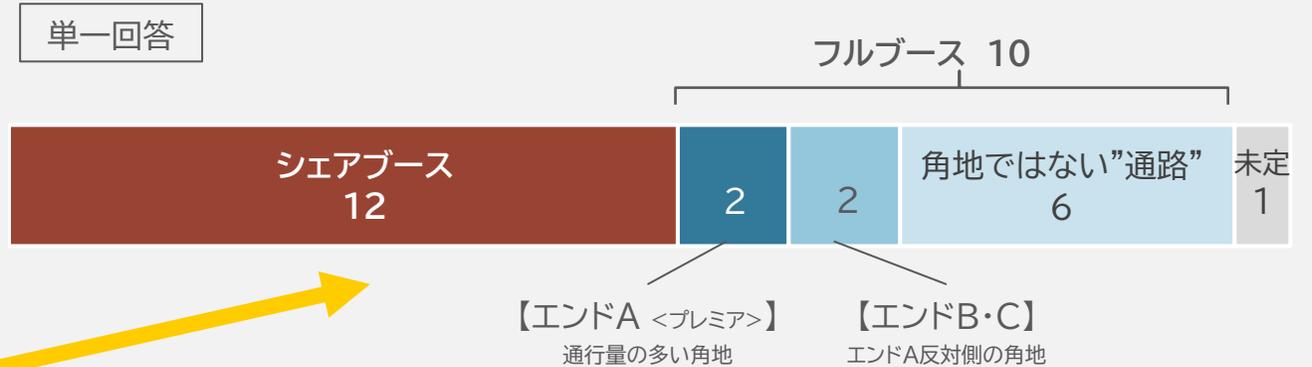
- JASSOによる受付対応により、訪問してくる海外大学をうまくスクリーニングしてくれる

7. NAFSA2023大会(米国ワシントンDC/2023年5月30日~6月2日) ご出展意向

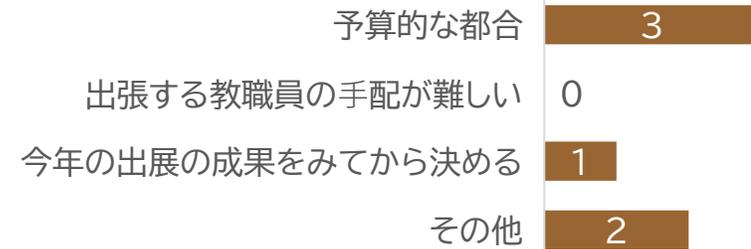
「日本合同ブース」へのご出展意向 (回答時点での予測・希望)



出展を希望するブース種別



「検討中・未定」「出展しない」理由



8. 感想・意見

自由記述回答

NAFSA2023デンバー大会に参加された感想や出展に関するご意見などをお聞かせください。(抜粋)

- コロナ対応等イレギュラーな面もありながらも対面で多くの新規協定校候補と出会えたためとても良い機会となり、国際教育に関わる多くの教職員に参加してほしいと思った。
- やはり対面開催によるこのようなネットワーキングの場の生産性はオンラインのそれとは比較にならないと実感した。
- 様々な教育機関の担当者と話すことができ、改めてネットワーキングの大切さを実感した。また本大学でもっと強化しなければならない点にも気づくことができ、今後も出展していきたい。
- 時間を効果的に使うためには、交渉相手の見極めが大切。「どこでもよいから開拓したい」大学とは、協議・交渉に至らないことがほとんどだが、一方、JASSOの受付を通じて、もしくは事前の情報収集でピンポイントで訪問してくる大学とは、協議・交渉に至るケースが多かった。
- 今大会は参加国・地域に偏りがあったように感じた(中国・東南アジア等の参加無)が、その分日本ブースへの立ち寄りが多かった。コロナにより停滞していたプログラム等を立て直す良い機会だった。
- 協定大学からは日本ブースはとてもきれいに装飾されており、一番好きだとほめられた。